



「パラインアート」に質問し、レンタルした障害者の絵画を飾っている「ドリム歯科クリニック」のロー

福岡市中央区

障害者の絵 オフィスに

障害者が描いた絵をオフィスの鑑賞画などとして企業に貸し出し、レンタル料の一部を障害者の報酬にする「パラインアート」の活動が、福岡県内でも徐々に広まっている。障害者の経済的自立を支援する東京の会社が始めたビジネスで、九州第1号の代理店が5月、福岡市に誕生。既に県内の4企業・団体と契約した。障害者の側だけでなく、利用企業にも「社会貢献することで企業価値の向上につながる」と評判は上々という。

レンタル料の一部 作者の収入に

福岡市中央区の西鉄平尾駅の駅ビルにあるドリム歯科クリニック。明るい雰囲気の内装に、海に懸かる虹を2匹の犬が眺めている絵が飾られている。神奈川県在住で、心臓機能障害でイラストレーターの仕事から退いた人の作品だ。

同医院は今年8月から年6万9300円のレンタル契約で、この作品を飾っている。木村慎一院長(51)は「パラインアートの代理店の売り込みがきっかけで、この事業を知ったという。気が

違ひ、標準額装の8号大(75センチ×52センチ)で年6万9300円から、売り上げの34%をセルフサポートと作者が折半し、残りが額の制作費や代理店報酬など。自社製品と同時にパラ

福岡市障がい者就労支援センターの黒田小夜子所長は「芸術面の才能を持つ障害者は少なくないが、ビジネスにつながる動きは珍しい。家族の支援や障害者年金で生活する中では貴重な収入であり、自己表現や誇りにもなる。今後は企業側に社会貢献の一つとして、

「パラインアート」活動 福岡でも

自立と企業価値向上に一役

同社の花田政章「ミニ」なる」と話している。三和サービス＝092(4881)8156。(座尾伸彦)

